

【優秀賞】

生きづらい社会

【非公表】

突然ですが、私はトランスジェンダーであり、バイセクシャルです。男子にも女子にも恋をしたことがあります。私が現在付き合っている人も、同じように異性と同性のどちらにも恋をする人です。さらに、私はかっこいい系統のものを好んでいます。学校には女子生徒用の制服（セーラー、スカート）で通っていますが、本当は男子生徒用の制服（学ラン、ズボン）を着たいと思っています。そして、現在学校生活をする中での一人称は「俺」です。ここまで読んだ皆さんは、こんな私についてどう思いますか。

今までは女子として生きていることが当たり前で、何ら違和感を覚えることはありませんでした。男子を好きになるのが当たり前、かわいいものを好きになるのが当たり前、そのように教わってきたからでしょう。幼稚園でも小学校でも、男子を表す色は青色や水色で、女子を表す色は赤色やピンク色でした。両親が買ってくれる服や文房具も、ピンク色のものや可愛い女子用のものばかりでした。そのことに違和感を感じたのは、私が中学一年生になったときでした。

入学式の前、ペンケースやシャープペンシルなど、中学校で必要なものを買そろえました。母と買いに行ったのですが、そのときに私が欲しかったのは、黒いペンケースでした。母は

「もったかわいいの買いなよ、女の子なんやから。」

と言いましたが、私は断り、そのペンケースを買ってもらいました。そのときの私の私服には、スカートが一つありませんでした。小学六年生あたりから、欲しいと言うことがなかったからです。私の身の回りの女子はみな、可愛いペンケースを持っていたり、ミニスカ

ートを履いていたり、私とはかなり違っていました。それまでは、ただ単に好みが違うからだと思っていました。ですがそのとき、決定的に違うところができました。私は、女子に恋愛感情を抱いたのです。周りと違っていることが怖くて、誰にも相談できませんでした。ですが、その人は、私は入っていたバレエ部の先輩だったので、引退したときに、諦めることにしました。それから、私は周りとは違うのだと、意識しながら生活するようになりました。

一人称は「僕」に変えることにしました。いつしか、スカートを履くことも嫌だと思い始めるようになり、勇気を出して、母に、

「高校からはズボン履かせてや。」  
と言ってみたのですが、

「だめ、スカート履きなさい。」

と返されました。そのときから、やはり母は理解してくれないのだと考えるようになりました。どうせ他の人も同じだろうなと思い、周りに相談することもありませんでした。

ですが、あるSNS上で、自分と同じように、周りから偏見を受けたり、理解を得られなかったりしたことによって、苦しんでいる子を見つけたのです。自分と同じトランスジェンダーであり、バイセクシュアルでした。その子も、自身と同じ境遇ということ、私に心を開いてくれました。その後、しばらく話した後、実際に会うことがありました。もちろん、お互いに服装は男性向けですが、体の性別は同じく女性です。そして、何度か会ううちに、お互い理解するようになりました。お互いに性の在り方について理解しているので、話していても不快感を感じることなく、心地よく過ごすことができます。私はその子の前だけでは、自分の本当の姿を出すことができていると感じています。

現在の社会は、とても生きづらいです。身の周りの人、その中でも

一番身近である家族にさえ理解を得ることができないのです。最近、ネットやテレビなどのメディアで、「LGBTQ+」が取り上げられるようになり、性の在り方について理解が深められてきているとは思いますが、実際には知識として頭に入っているだけであり、意識を改めることにはつながっていません。「普通ではない人」「周りとは違う人」と認識されているままなのです。「女の子だからこっちの方がいいよな」「もっと女の子らしいものがないんじゃない？」と周りから決めつけられ、自分の好きなように生きられないのは、明らかに人権が認められていません。理解を得ている人と話していると、ありのままの自分を出すことができるので、とても心が落ち着きます。そんな人が増えていけば、社会はさらに平等な世の中へと近づいていくのではないかと考えます。誰もが笑顔で過ごせ、誰もが生きやすい。そんな社会になることを願っています。